

KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

KATO PRO

TONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD



AUTOBACS SUPER GT 2019 series Round.5 FUJI GT 500km RACE

開催サーキット：富士スピードウェイ
予選：8/3(土) 晴れ
決勝：8/4(日) 晴れ

6月にタイで行われた第4戦から約1ヶ月。SUPER GTは中盤戦の山場とも言える、第5戦富士を迎えた。通常のレース距離よりも倍以上の長さがある500マイル=約800kmの長距離戦。ポイントも通常よりも多いことから、シリーズを考えると各チームが重要なラウンドととらえているレースだ。

公式練習

8/3(土) 8:50~10:15 (専有 10:15~10:25) 天候：晴れ コース：ドライ
ベストタイム： 道上龍選手 1'38.648 大津弘樹選手 1'38.962

真夏の富士での一戦は、じつは Modulo Drago CORSE にとっては苦い思い出があるレース。2018年はこちらで公式練習中に他車に激しくヒットされ、車両交換の憂き目にあった。道上龍も「追突されないよう気をつけました(苦笑)」というが、午後の公式予選に向けて、Modulo KENWOOD NSX GT3 は道上からステアリングを握ると、17周を走行。まずは1分38秒648というベストタイムをマークする。

交代した大津弘樹は、18周をこなして1分38秒962というベストタイムを記録。7番手という好位置で公式練習を終えることになった。もともと富士スピードウェイは得意コースではあったが、セッティングも良好。午後の予選に向けて期待を高める公式練習となった。



KENWOOD**ThreeBond** **Honda Cars** 横浜**KATO PRO****MIR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

公式予選

8/3(土) 14:50 ~ 15:03 天候:晴れ コース:ドライ
ベストタイム: 道上龍選手 1'38.326 (Q1) 大津弘樹選手 1'37.817 (Q2)

Q1:

午前中から8月らしい暑さとなっていたが、多くのファンが訪れた午後やはり酷暑。そんななか、午後2時50分から公式予選Q1がスタートした。長丁場の決勝とはいえ、戦略の面を考えると予選順位は重要だ。Q1を担当したのは、いつもどおり道上。きっちりとウォームアップをこなし4周目に1分38秒227というタイムをマークし、11番手へ。やや失敗もあったがQ2進出を果たし、大津に繋ぐことに成功した。

Q2:

GT500のQ1をはさみ、午後3時35分にスタートしたGT300のQ2。道上から好フィーリングを聞いていた大津は、4周目に1分37秒817というタイムをマークし、8番手につけた。タイヤのピークをアタッククラップに合わせきれず、トップ3を狙っただけに悔しさもあるが、GT3カーのなかでは5番手で、予選で速さをみせるライバル車以外ではトップ。決勝レースに向けて期待を高めるグリッドを獲得した。

決勝レース

8/4(日) 13:30 ~ 天候:晴れ コース:ドライ
ベストタイム: 大津弘樹選手 (1' 39.668)

迎えた8月4日の決勝日は、この日も前日同様晴天の下で迎えた。ただ暑さはあるとはいえ、少し風もあり、前日より過ごしやすいコンディションのなか、3万8100人の観衆が訪れ午後1時30分のスタートのときを迎えた。

Modulo KENWOOD NSX GT3のスタートドライバーを務めたのは大津。ただ、序盤非常に高い路面温度のなか、大津が予選Q2で履いていたタイヤはいまひとつコンディションに合っておらず、1周目に10番手にポジションを落とすと、3周目には11番手となってしまふ。しかしそんな苦しい状況は予想されていたもの。大津はなるべくポジションを落とさぬよう、粘りの走りで25周まで周回を重ねピットイン。道上に交代した。

今回のレースは長距離ということもあり、4回のピットストップが義務づけ。このピットでのロスをいかに減らし、かつペースを保つかが重要で、序盤からGT300クラスは車両の特性や戦略によってピットインのタイミングがまちまちとなっていた。軽量のJAF-GT規定のマシンはタイヤ無交換作戦を採るなどピットインのタイムを削ってくるが、Modulo KENWOOD NSX GT3にとっては難しい戦略。道上と大津がしっかりと高いペースを保ち、ピットで四輪をすべて交換しながら、ミスなく繋いでいくしかない。

戦略が分かれ、順位も分かりづらいレースとなっていくが、Modulo KENWOOD NSX GT3はレース前半トップ10圏内を着実にキープ。大津の第1スティントとは異なるタイヤを履き好調なペースを保った道上はスティント終盤、前を行く5番手の#56 GT-Rに迫りながら、61周を終えピットへ。ふたたび大津に交代した。直後、レースはGT500車両のクラッシュでセーフティカー導入となったが、それもあって大津は非常に長いスティントを担当。110周まで引っ張り、ふたたび道上へ交代する。

Modulo KENWOOD NSX GT3にとって幸運となったのは、この直前にGT500車両がコース上にストップしたことにより、2回目のセーフティカーが導入されたことだ。GT300では早めにピット作業を繋



KENWOOD**ThreeBond****KATO PRO****MiR****SHIBA UNING JAPAN**
advanced technology products

いでいたチームもあったが、このセーフティカーのタイミングで早めにピットインしていたチームはラップダウンになっていたが、Modulo Drago CORSE は同一ラップに収まっており、少しずつ順位を上げることに成功したのだ。

そんななか、道上は 134 周を終えピットへ。短めのスティントだったこともあり、給油作業も早く、ピットイン前まで競り合っていた #61 BRZ の前に出ることに成功する。レースも最終盤に差しかかっており、三たびステアリングを握った大津は、Modulo KENWOOD NSX GT3 にムチを入れた。

ピットアウトした大津は、柔らかめのタイヤで前を行く #18 NSX GT3 に狙いを定める。Honda の先輩ドライバーが駆り、かつ同じパッケージのマシンに負けるわけにはいかない。しかも、#18 NSX GT3 をかわせば 3 番手。表彰台圏内なのだ。

大津は 1 分 39 秒台という非常に速いラップで #18 NSX GT3 との差を詰めていくと、146 周目の TGR コーナーから コカ・コーラ・コーナー までの攻防でこれをオーバーテイク！ ついに 3 番手を手に入れる。レースも残りわずか。大津のこのペースならば、タイヤ無交換作戦を採り、3 スティント交換していない 2 番手の #52 マーク X MC にも追いつくかもしれない……。大津はプッシュを続けていった。

しかし、最後は 2.152 秒差まで追いつめたものの、レースの最大延長時間を迎えてしまった。Modulo KENWOOD NSX GT3 は 162 周を走り 3 位でチェッカーを受けることになった。2018 年のオートポリスで Modulo KENWOOD NSX GT3 が手にした 3 位と並ぶチーム最高位タイの成績だ。できればそれを更新したかったところだが、“正攻法”でレースを戦った GT3 カーのなかでは最上位だ。

今回はレース距離が長いこともあり、道上／大津組はこの 3 位で 13 ポイントを一気に獲得し、ランキングでも 11 位に浮上した。ランキング上位とも決して大きく離されているわけではない。もちろん足りない部分はあるが、昨年の悪夢のクラッシュから 1 年。Modulo Drago CORSE は成長を実感し、シリーズ最長レースを締めくくることができた。



KENWOOD

ThreeBond

YOKOHAMA

IDEMITSU

Honda Cars 横浜

HATO PRO

STONE

MIR

METAL SURFACE TREATMENT
WPC

SHIBA UNING JAPAN
advanced technology products

Matsui
Bokujo

SP
SP AIR

DRAGON BEARD

監督・ドライバーコメント

チョン・ヨンフン監督

今回は第2戦富士からの反省を活かしたセットで持ち込みましたが、走り出しからほとんど改良してないくらい良いものでした。その点では初日からの流れがいいもので、ドライバーふたりからのマシンからのフィードバックも良かったですね。レースは序盤タイヤが合わない状況を短めにして、そこからはSCもあり、長めのステントをとることができました。ペースは後半も悪くなく、終盤大津選手がみせてくれたいい走りに繋がったと思います。ドライバー、スタッフと暑いなか一生懸命戦ってくれたのがこの結果に繋がったと思いますが、できれば最上位の2位に届きたかったですね。また次戦以降に期待します。

道上龍選手

予選8番手からのスタートでしたが、前半暑いなかで順位を落としてしまったものの、自分たちもタイヤのことを理解してペースを守った結果でした。後半柔らかめのタイヤでプッシュすることも含めて、その意味で自分たちの作戦どおりに運んだレースでしたね。終盤、大津選手の頑張りがあったからこそその表彰台だと思いますが、昨年同様大津選手がああいう走りをするので、彼の将来にも繋がるレースになったのではないのでしょうか。次戦はオートポリスで、昨年初表彰台を獲得した場所でもあります。その間にテストもありますし、しっかり勝てるアイテムを考えて、レースウィークに臨んでいきたいですね。

大津弘樹選手

スタート直後、序盤に履いたタイヤが温度レンジと合っておらず苦しい戦いになりましたが、道上選手に交代してからは合ったタイヤに履き替え順位を上げることができ、さらに僕の第2ステントで長い時間走ることができたことによって、終盤のピットインで給油時間を減らすことができました。メカニックの皆さんも素晴らしい仕事をしてくれた結果が表彰台に繋がったと思いますが、できれば2位にいたかったので悔しさもありますね。とはいえ、みんなが最善を尽くした結果の表彰台だと思いますし、次のオートポリス戦もチーム全体でベストを尽くして、優勝を目指して頑張っていきたいと思います。



Official Twitter : <https://twitter.com/34ModuloDrago>

Facebook Page : <https://www.facebook.com/DRAGO.CORSE>